

平成17年度環境監視結果年報の概要

1 結果取りまとめの期間

平成17年4月から平成18年3月まで

2 環境監視の項目

(1) 空港島等の存在に係る環境監視項目

海水の流れ、水質、底質、汀線、海域生物、鳥類及び海浜植物

(2) 空港の供用に係る環境監視項目

大気質、騒音及び鳥類

3 結果の評価

(1) 評価の主体

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会(委員長:岩田好一郎中部大学教授)

(2) 評価の考え方

環境監視結果を環境基準値等及び過年度調査結果等と比較し、それぞれ整理を行い、これらにより、空港島等の存在並びに中部国際空港の供用が周辺地域に与える環境影響の程度を把握することにより、評価がなされている。

(3) 評価の内容(総合評価)

環境監視計画に基づき平成17年度に実施された空港島等の存在に係る海水の流れ及び水質、底質、汀線、海域生物、鳥類、海浜植物並びに空港の供用に係る大気質、騒音、鳥類の環境監視結果に対して、検討委員会の総合評価を以下のとおり受けた。

1 空港島等の存在に係る環境監視結果

ア 環境基準値等との比較

水質について、環境基準値等と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準に適合するか環境基準値等以下であった。

- 水質の項目のうち、化学的酸素要求量(COD)、全窒素(T-N)、全燐(T-P)については、調査点TS5の化学的酸素要求量(COD)、調査点TS6の全窒素(T-N)及び全燐(T-P)以外は、環境基準値を上回っていたが、愛知県が実施した周辺の公共用水域等水質調査結果と比較した結果、ほぼ同様な傾向であった。

イ 過年度データとの比較

存在に係る全ての項目について、過年度データとの比較をした結果、環

境監視結果は、次の場合を除いて、ほとんど変化がなかった。

- ・ 海水の流れについては、平成17年度の蒲池沖の表層の流向が平成12年度から平成16年度よりもやや西側に向かう傾向がみられた。また、小鈴谷沖の表層の流速が平成12年度から平成16年度よりもやや大きくなっている傾向が見られた。
- ・ 底質については、平成15年度以後、調査点TS2及びTS6において化学的酸素要求量(COD)の低下がみられていたが、平成17年度はほぼ横ばいであった。
- ・ 汀線位置については、平成5年度から平成17年度までの長期間では、ほとんどの区間で前進又は後退の様々な変化がみられたが、平成14年度以降は変化の傾向は比較的安定しており、平成16年度から平成17年度の短期間では、大きな変化はみられなかった。
- ・ 海域生物の中で、藻場については平成8年度以前よりも分布面積が拡大したが、その原因は自然変動などによるものと考えられた。
- ・ 鳥類については、工事の進行や空港島等の存在により生息環境が変化し、スズガモ、コアシサシ等の出現数に変化がみられた。

2 空港の供用に係る環境監視結果

ア 環境基準値等との比較

一般環境大気質については環境基準値や指針値と、航空機騒音については環境基準値と比較した結果、平成17年度環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準値または指針値以下であった。

- ・ 浮遊粒子状物質(SPM)については短期的評価の環境基準値を1回($0.225\text{mg}/\text{m}^3$)超えていた。また、光化学オキシダント(Ox)については環境基準値を超えていた。愛知県管理の周辺の大気汚染測定局において、いずれも環境基準値を超えており、広域的な現象であった。

イ 過年度データとの比較

一般環境大気質及びワシタカ類等の渡り鳥について、過年度データとの比較(空港の供用後と供用前とのデータ比較)をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて供用前後において、計測値や出現状況にほとんど変化がなかった。

- ・ ワシタカ類の渡り鳥の出現数は、供用前と比べ高峯山ではかなり多く、富具崎ではやや少なかった。

3 まとめ

平成17年度の環境監視結果では、存在及び供用に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

なお、一部で変化のみられた海水の流れ、底質、汀線、海域生物及び鳥類については、自然変動の影響も考えられることから、今後もその変化に注意して監視していく必要がある。

4 環境監視結果年報の公開

環境監視結果年報については、中部国際空港の情報コーナーや知多半島の5市5町等の庁舎において順次公開するとともに、インターネットを通じてその概要を公開する。

<http://www.pref.aichi.jp/kigyo-chosei/>

<http://www.centrair.jp/environment/>

(参考)

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

	氏 名	役 職 等
委員長	<small>いわた こういちろう</small> 岩田 好一朗	中部大学工学部都市建設工学科教授
委員	<small>おがさわら あきお</small> 小笠原 昭夫	名古屋学芸大学非常勤講師
委員	<small>きただ としひろ</small> 北田 敏廣	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授
委員	<small>くどう せいとく</small> 工藤 盛徳	東海大学名誉教授
委員	<small>こまつ あきら</small> 小松 明	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長
委員	<small>よしひさ こういち</small> 吉久 光一	名城大学理工学部建築学科教授